

みん・みんの会第9回総会

&「みん・みんの会のこれから」を話し合います

日時:2019年1月14日(月・祝)13時15分開場、13時30分開始

会場:「ソーネ・おおぞね」ホール 電話:052-910-1001(代表)

(JR、名鉄、地下鉄大曾根下車、徒歩約10分。地図参照)

☆みん・みんの会総会:13時15分~14時10分

☆木曾川上下流交流・連携の集い:14時15分~16時15分

内容:「上下流交流・連携の10年とこれから」

発題:唐沢尚之さん(木曾町・小池糍店)、木祖村観光協会専務理事・圃中登志彦さん(初代木祖村名古屋出張所所長)、日進市義・山根みちよさん(愛知中部水道企業団の1トン1円の取り組みや日進市と木祖村の交流連携)

☆参加費:500円(資料代、「木曾五木キャラクター」はがき8枚1組合む)

みん・みんの会の第9回総会を2019年1月14日(月・祝)午後1時半から名古屋市北区山田町にある大曾根住宅1階の「ソーネ・おおぞね」のホールで行います。JRや地下鉄、名鉄の大曾根駅から徒歩で約10分のところ。(JRや名鉄、地下鉄の大曾根駅から徒歩約10分。地図参照)。総会では①2017年度活動報告②2017年度会計報告(収支決算)③「木曾川流域水源の里基金」の現状報告と運用④2018年度活動計画⑤2018年度予算などについて話し合います。

会員の皆さん、ご出席下さい。

総会に続いて午後2時半ごろから木曾川上下流交流・連携の集いを行います。

今回は、会員の皆さんで、みん・みんの会の「上下流交流・連携の10年とこれから」について、小池糍店・唐沢尚之さん(木曾町)、木祖村観光協会専務理事・圃中登志彦さん(初代木祖村名古屋出張所所長)、日進市義・山根みちよさん(愛知中部水道企業団の1トン1円の取り組みや日進市と木祖村の交流連携)から発題してもらい、自由闊達に話し合いたいと考えています。

「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」を合言葉で、木曾川流域(木曾川、飛騨川、愛知用水)の上下流交流・連携を目的に「水源の里を守ろう 木曾川流域みん・みんの会」は始まりました。2008年9月13日に第1回「水源の里を守ろう 木曾川流域集会」を開催してから、9月で10周年を迎えました。今日まで何とか歩むことができたのは、皆様のご支援ご協力の賜物です。深く感謝申し上げます。

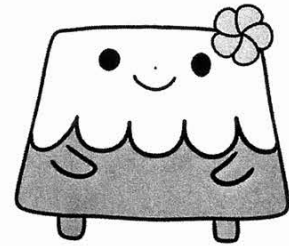
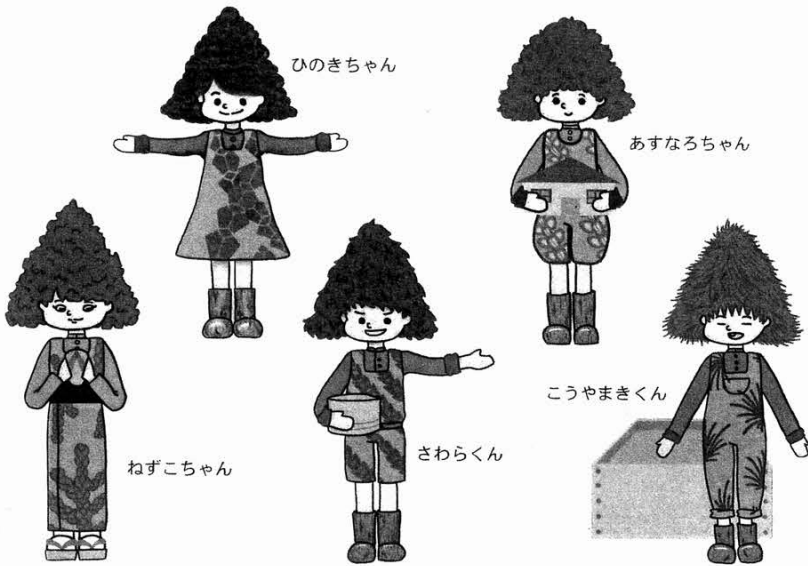
みん・みんの会「10周年の集い」は2019年3月10日(日)に開催!

みん・みんの会は10周年を記念する集いを2018年9月30日(日)に行う予定でしたが、台風の影響で延期せざるを得ませんでした。

10周年の集いは、2019年3月10日(日)午後1時開場、1時半から「ソーネ・おおぞね」で行います。

3月10日の記念講演は『ソトコト』編集長で、『ぼくらは地方で幸せを見つける』(ポプラ新書)の著

者である指出一正さんに、引き続きお願いしました。集いの構成は、第1部が指出示さんの講演、第2部が木曾川上流域の交流連携でつながってきた人びとからのごあいさつ、第3部は下流域・都市部の人びとからのごあいさつ、という内容で考えています。よろしくお願ひします。



**「木曾五木キャラクター」
はがきが完成しました**

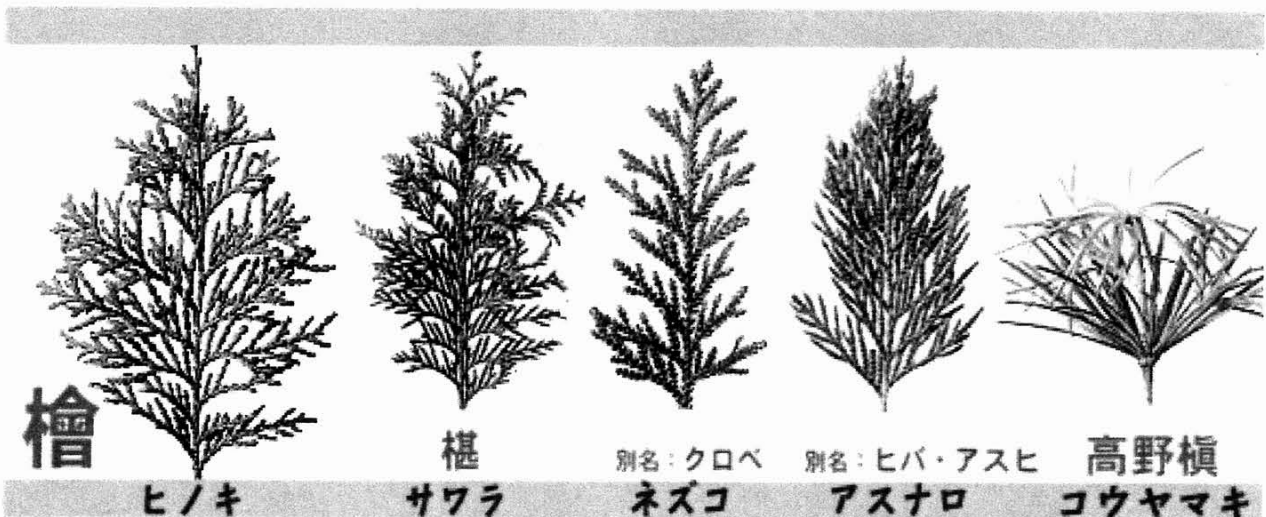
大切に育てられてきた木曾五木たち

～フルカラー8枚1組・頒価 500 円～

10周年に向けて制作していましたが「木曾五木キャラクター」はがきが完成しました。このキャラクターは長野県木曾青峰高校インテリア科 2018年卒業生の作品で、制作にあたって名古屋のイラストレーター・茶畑和也さんのお力添えをいただきました。はがき8枚1組・頒価500円で、1000組作りしました。

「木曾五木キャラクター」はがきを取り扱っていただけませんか。

「木曾五木キャラクター」はがきの注文は郵便、メール、FAXでお願いします。
売上は経費以外は全て「木曾川流域水源の里基金」に積み立て、上流の若い人びとの活動に活かして生きます。どうかよろしくお願ひします。



(△木曾官材市売協同組合 HPより引用)

「上流は下流を思い。下流は上流に感謝する」木曾川流域上下流交流・連携を

*この「集会宣言」は9月30日に予定していた宣言です。上下流交流・連携やみんなの会のこれからの考える「材料」の一つとして今回掲載しました。皆さんのご意見を年内までにお寄せください。よろしくお願いいたします。

「自分たちが暮らしている上流地域は限界集落ではない。水源の里だ」との新聞記事に心が揺り動かされて「みんなの会」は始まりました。10年前のことです。

時はリーマンショックで、格差や不平等などの社会の歪みが、実感を伴って進行していきました。不安な時代に“幸せをどこで見つけていくのか”“手ごたえを感じる暮らし方”——人びとの中で、価値観の変化が育まれていきました。

みんなの会は“森は水の源、水は命の源、川は命のつながり”をモットーに、「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」を合言葉に

木曾川上下流交流・連携を取り組んできました。

『木曾川流域図』作り、木曾川流域水源の里基金を設立し、その基金を活用した高校生のベンチや木製玩具づくり、「水源の里を守ろう木曾川流域集会」の開催、そして木祖村、木曾町で地元の人びとの協力と力添えを得ながらの大豆作り（木祖村の畑で大豆の収穫）・味噌造り（木曾町の小池糰店）を行なってきました。

10年に亘る、これらの動きを通して、実に多くの人びとと「顔が見える関係」を築くことができました。皆様に熱く深く感謝申し上げます。ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

みんなの会 10周年記念 集会宣言（案）

私たちは生活用水をはじめ農業、工業用水で、木曾川の水の恩恵を日々受けています。木曾川、飛騨川、愛知用水は生命（いのち）の源です。生命の水を育む川の上流と下流の関係として、流域として、「同じ水を飲み、使う仲間として、共存共栄していく」ために、一層の交流・連携が求められています。

一、原材料を作る人、加工する人、そして消費する人がつながりあって、お互いに“見える関係”の中で“あたたかいお金”による「小さな経済」を地域や自治体、木曾川上下流の流域で具体化していきます。

一、上流域で新たな商品の発見や開発による物販の充実、若い人びとのアイデアやセンスを活かしたモノづくりなどに踏み出していきます。

一、“人が動き、モノが動き、ココロが動いて”関係が積み重なっていく上下流交流・連携を創り出していきます。

一、上流の人びととつながりを築いていく過程が、下流の人びとにとって、“幸せの価値”を発見し、生み出すように目指していきます。

2018年も木祖村の畑で大豆70kgが収穫できました

8年目となった2018年の大豆作りは、木祖村の方々の支えと自然の恵みを受けて、異常気象や新たな獣害に見舞われながらも例年に比べて、やや減収とはいえ70kgほどが収穫できました。

7月、イノシシが畑の中を歩き回り苗を何本もダメになりました。モグラは苗の下をはい回り何十もの苗を枯らしてしまいました。例年の草取りは、涼しい夏の清々しさの中で行うものでしたが、今年は木祖村でも異常な暑さでした。お陰で大豆の生育が2週間ほど遅れる状態となりました。大豆の虫食いは、ある程度

やむをえませんがポップコーンは獣害に会うことなく3年ぶりに収穫できたのは嬉しいことです。

大豆の殻たたき作業は、11月10～11日、2日間とも素晴らしい秋晴れに恵まれて行いました。この作業は、ハザに干した大豆の束を木の棒でひたすら叩いて大豆粒を取りだし、目の粗いかごに入れてガラを取り除き「とあおり」という機械で細かいゴミを飛ばして、出てきた大豆を大きな紙袋に入れていくという流れです。今年は木曾在住の会員の方が作業に参加していただき、作業がはかどりました。

今年の収量は「みそ豆」24kg、「すずほまれ」39kg、黒豆5.5kgでした。これを選別すると2割程減るかもしれませんが、「みん・みん楽作隊」の皆さんに分配し、イベント等で販売した残りを小池靴店に味噌に仕込んでいただく予定です。

木祖村の畑で2年前に収穫した大豆で造った美味しい味噌「みなもと」、在庫がありますので皆さん購入・販売にご協力下さい。2019年、皆さんの参加をお待ちしております。一緒に大豆作り、味噌造りをやりましょう。(みん・みん楽作隊 近藤)

「成長型」から「成熟型」まち・都市経営へ転換していく仕組みと発想

「人口減少時代の都市」をテーマにした講演会が11月15日にありました。講演は諸富徹氏(京都大学大学院経済学科教授)で、主催が公益財団法人名古屋都市センターで、参加者は約80人。名古屋市議の斎藤まことさんと参加しました。この講演内容を紹介します。

日本の都市は、経済成長、人口増加、物価上昇の3点セットで成長してきました。この3点セットを前提にしたまちづくりしか日本の自治体は経験していません。しかし、これからは、3点セットが全て反転する中で都市経営をしていかななくてはなりません。人口減がもたらすのは空き家の増加や収税減、財政悪化…。そこに老朽化していく社会資本の維持更新費用、高齢化による社会福祉支出の増加が重なってきます。人口密度が低下すれば社会基盤のコストは高くなります。

まちづくりの仕組みと発想を変えない限り、未来は見通せないでしょう。「成長型」都市経営から「成熟型」都市経営へ転換していくための仕組みと発想を切り替えていかななくてはなりません。人びとを引き付け、地域、まちの価値を引き上げていく都市政策/都市経営が必要です。

その方向性として「コンパクトシティ」、それは「縮退化政策＝人口が疎となった地域からの撤

退戦略」ではない。縮退化のメリットとして①環境改善/エネルギー効率性の改善②経済成長への寄与③市民社会形成の寄与が考えられ、縮退化を新しい経済機会の創出であり、生み出された果実を、市民が公平に共有できる仕組みが必要です。生活の質向上のための空間再編として、人びとが憩い、集うカフェなどの施設を配した広場空間を創出できないか、などが話されました。

そして、その代表事例として富山市を挙げられました。コンパクトなまちづくりを基本方針としている富山市が目指すのは「お団子と串」の都市構造。串は一定水準以上のサービスレベルの公共交通、お団子は串で結ばれた徒歩圏。この政策について、富山市長は中心部や周辺部の120カ所を車座で住民と合意形成のために話し合っていました。

これらの話を聞きながら、地域・まち・都市の持続性の問題や課題を痛感しました。私たちの衣食住において、暮らし続けていけるための視点からも、上下流交流・連携や流域圏を考えていきたいと思います。また、地域・まち・都市における公共交通の充実、空き家・空き地の活用や暮らし続けていける「徒歩圏」の内容についても大いに刺激を受けた講演でした。(かわさき)

<参考文献>「成長型から転換を」(2018年4月28日付中日新聞朝刊)、『人口減少時代の都市』(諸富徹著、中公新書。2018年2月刊)

皆様、2018年も活動へのご支援・ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

水源の里を守ろう 木曾川流域みん・みんの会

連絡先：〒464-0075 名古屋市千種区内山3-7-11 さいとう事務所気付
TEL 052-745-1001 FAX 4 052-741-2588 Mail suigenosato@gmail.com